

2022年第4回IEEE東京支部理事会 議事録(案)

日 時：2022年12月1日(木) 15:00~17:35

場 所：住友電気工業株式会社 および オンライン

出席者：中野 Chair、小林 Vice Chair、重松 Secretary、前原 Treasurer

坂東 COC Chair、粕川 FNC Chair、笠 NC Chair、松尾 TPC Vice Chair、

津村 PC Chair、中村 SAC Chair、鈴木 HC Chair、奥村理事、

今井 LMAG Chair、Chaki YP Chair、稲森 WIE Chair、

滝嶋 Past Secretary、羽瀨 Past Treasurer

オブザーバ：大野 JC SAC Vice Chair(SIGHT IEEE Tokyo Section Chair 代理)、Japan

Office 百武氏、佐田 次期 Vice Chair、樋口 次期 Treasurer、添谷 次期 COC

Chair、森田 次期 FNC Chair、中村 次期 NC Chair、廣畑 次期 PC Chair、

金 次期 PC Secretary、河東 次期 HC Chair、太田 次期 LMAG Chair、

Kawamoto 次期 WIE Chair

事務局、幹事会社事務担当

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)

2. 2023-2024 年支部役員・理事・委員会メンバー 【審議】 (資料 2)

3. 2023-2024 年 Japan Council 東京支部代表理事 【審議】 (資料 3)

4. 2022 年東京支部活動報告 (資料 4)

5. 2022 年東京支部決算予想 (資料 5)

質疑応答(議題 1-5)

6. 委員会 2022 年活動報告・予算執行状況および

2023 年活動計画・予算案 【審議】 (資料 6)

・ Chapter Operations Committee (資料 6-1)

・ Fellow Nominations Committee (資料 6-2)

・ Membership Development Committee (資料 6-3)

・ Technical Program Committee (資料 6-4)

質疑応答(議題 6 前半)

・ Publications Committee (資料 6-5)

・ Student Activities Committee (資料 6-6)

・ History Committee (資料 6-7)

質疑応答 (議題 6 後半)

7. Affinity Group 活動報告 2022 年活動報告・予算執行状況および

2023 年活動計画・予算案 【審議】 (資料 7)

・ Life Members Affinity Group (資料 7-1)

・ Young Professionals Affinity Group (資料 7-2)
(Educational Activities Committee)

・ Women in Engineering (資料 7-3)

質疑応答 (議題 7)

8. 2023 年東京支部活動計画【審議】 (資料 8)

9. 2023 年東京支部予算【審議】 (資料 9)

質疑応答 (議題 8,9)

10. その他 (資料 10)

・ SIGHT 報告 (資料 10-1)

・ 事務局労務関係業務のシステム化について (資料 10-2)

・ 次期理事会への引継ぎ事項 (資料 10-3)

・ [参考] メール審議一覧 (資料 10-4)

・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧 (資料 10-5)

質疑応答 (議題 10)

議事は議題に記載の順で進められたが、議事録においては読みやすさの観点で各報告に
続き対応する質疑応答を記載した。

議事：

0. Chair のご挨拶

1. 前回理事会議事録の確認【審議→承認】 (資料 1)

報告：Secretary

前回理事会議事録について、異議なく承認された。

2. 2023-2024 年支部役員・理事・委員会メンバー【審議→承認】 (資料 2)

報告：Secretary

2023-2024 年東京支部の Chair は相澤氏、Vice Chair は佐田氏、Secretary は奥村氏、
Treasurer は樋口氏となった。YP Chair は現在調整中。次期幹事会社は東芝、その次の
幹事会社は日立となる。

議題 2 について、異議なく承認された。

3. 2023-2024 年 Japan Council 東京支部代表理事【審議→承認】 (資料 3)

報告：Secretary

Japan Council に東京支部代表理事を 4 名送ることができる。東京支部 Chair と Vice

Chair が出席。残り 2 名に関しては、次期 SAC Chair と次期 WIE Chair が出席する。

議題 3 について、異議なく承認された。

4. 2022 年東京支部活動報告 (資料 4)

報告：Secretary

本年の活動を各 Chair 等が総括したものをまとめた。各 Chair の意思が反映されている。12/9 の JC 理事会にて Chair から報告する。

5. 2022 年東京支部決算予想 (資料 5)

報告：Treasurer

2022 年の中間会計報告。11 月末の中間会計と 2022 年末における決算予測を提示している。円安の影響もあり、収入は予算より増加。支出は、固定費の理事会費および事務局費は順調に執行している。各 OU の活動費は 11 月末時点の支出を示しており、11 月と 12 月の実施を含めた形で予測を示す。全体として支出が収入よりも上回ると想定している。これにシステム改修が加わり、JC と東京支部が 3:1 で分担する方向で、マイナス額が多少増える。

各 OU が今年度の支出予測を立てた。実際の支出の進捗は、今後イベント等が各 OU で実施予定のため、支出報告対応をお願いしたい。

質疑応答

Chair：YP の活動費が 0% になっている。YP の活動は活発だと思っているが、そのギャップはどのように理解すれば良いのか。

YP Chair：活動は行ったが、お金を無駄にしないようにした。

Chair：無駄にしないのは大変重要なことだが、費用が掛かる活動はしなくても良いのか？

YP Chair：その目的より、皆様の役に立つ活動ができれば良いと考え、そこに集中した。

Chair：Treasurer の意見が聞きたい。

Treasurer：実施に関してどのような考えがあるのか、来年の予算の考え方も含めて YP Chair から説明して欲しい。

Secretary：後ほど来年の予算について YP Chair から報告があると思う。

Vice Chair：システム改修の予算見込みを教えて欲しい。また、いつ頃概要がわかるのか。

Treasurer：前回の理事会で説明の通り。事務経費は JC と東京支部で 3:1 という費用分担。請求書はまだ無い段階なので、会計には反映していない。12 月に会計処理を進める。

Secretary：進捗は議題 10 にて報告する。11/21 から運用を開始し、12 月のなるべく早い時期に検収をあげる予定。

6. 委員会 2022 年活動報告・予算執行状況および

2023 年活動計画・予算案【審議→承認】

(資料 6)

・ Chapter Operations Committee

(資料 6-1)

報告： COC Chair

前回理事会以降、TCS・FCS に関する対応は無い。JC COC ミーティングが開催された。Chapter 支援費は昨年度と比較して支出が少し減っている状況。コロナ禍の影響と考えられるが、低下の原因は JC COC にて分析中。Chapter 支援費は 2020 年度から東京支部への移管を目指していたが、コロナ禍のため進まず、後ろ倒しとなった。2024 年度移管を目指して JC にて準備を進めている。移管対象は計画通り、Chapter 支援費のみとなり、Award 申請の移管は対象外。

質疑応答

Secretary：東京支部への移管が無いと、予算を立てる必要が無い状況。

・ Fellow Nominations Committee

(資料 6-2)

報告： FNC Chair

来年 2 月の終わりが Fellow 申請の締切となる。各研究機関に窓口を置き、窓口を中心に各研究機関の申請状況を報告頂いている。Fellow 申請数は 3 名、Senior Member 申請者数が昇格者を含め 15 名となった。この 2 年間、新たな方式として各研究機関に窓口を置き、フォローすることで進めたが、この取組みについて意見を伺い 2 件回答があったので紹介する。「トップダウン方式で良い。」、「温度差など様々あるが、好事例を含めて紹介し合う場があると良い。」等のコメントを頂いた。この件は、次期 FNC Chair と引継ぎを含めて会議する予定。次期役員は可能性のある方が多数いる。そこを掘り起こし、申請に繋げることを次期 FNC Chair と話す。

質疑応答

HC Chair：次期 HC Chair と一緒に、福岡支部の方を推薦し、Fellow に昇格した通知を頂いた。我々でドキュメントの作成方法やリファレンスを推薦する等のフォローを行い、上手くいったと思う。東京支部でサポートし、他支部で昇格した方については、東京支部のプレゼンスを上手く示す方法があれば良いと感じた。

Secretary：昨日 Fellow 昇格者が公開された。東京支部 9 名、福岡支部 2 名、関西支部 2 名、仙台支部 2 名の合計 15 名。昨年は日本全体で 14 名だったので、1 名増加した。東京支部は昨年 11 名だったのが 9 名となったが、日本全体では 1 名増加という状況。

FNC Chair：次期 FNC Chair とともに話をするが、どのような背中への押し方があり奏功したのか、好事例を参考にお聞きしたいと考えている。FNC 活動を通して Senior Member 活

動の波及効果もあると感じており、全体として良い方向に進んでいると思う。

HC Chair、次期 HC Chair には、先ほどの事例を紹介して頂く機会があるかもしれないので、その際はお願いしたい。

Chair : Fellow 昇格者は昨年から微増したが、世界的に見るとどのような分析なのか。

FNC Chair : フォローしていないが、残念ながら低空飛行なのでは。

Chair : 研究者と会員の数等を考えたとき、世界で見たらもう少し多いのが当然だという水準となるのか。実力の数字だとすれば水平で行くことになるが、会員数や活動に見合った数でなければドラスティックに増やさねばならないと思う。

FNC Chair : 規定では全会員数の 0.1%。会員数がどのように推移するかによって、今回の 1 名増加が少ないのか、多いのかは判断する必要がある。

Chair : 例えば東京支部だと 7,000 人いるので、毎年 7 名だと良いのか。

Secretary : 0.1%の平均値に対して、日本は少し上である。中国などの状況は押さえていない。

FNC Chair : もともと、日本のプレゼンスはそれで良いのか。冷静に分析しなければならない。

Chair : 発展途上国も含め様々な国が世界にある中、平均で良いのか。おそらくまだ少ない。

FNC Chair : Fellow Evaluation Committee を Photonics Society で行った時も、日本からの申請数が圧倒的に少なかった。Chair のように有資格者、可能性の高い人はたくさんいる。そこを掘り起こし、申請者数を上げる。著名な方が多いので、Evaluation Committee に入れたとしても、Extremely Highly Recommendation 枠が取れると思う。この活動は重要。

HC Chair : 昨年の日本の Fellow 昇格者数は 14 名。そのうち 3 名が外国籍だった。今年の東京支部の Fellow 昇格者のうち日本国籍の方は何人いたのか。

Secretary : ローマ字の名前を見た限り、外国籍の方はいなかったと思う。名簿から Section ごとに名前が出ており、インド、中国、韓国かは判明するので会員数がわかれば良い。日本は 0.2%程になっているのが、他国と比べてどうなのか。勢いがあるインドや中国に対してどうなのか。その判別は分かると思う。

・ Membership Development Committee

(資料 6-3)

報告 : Secretary(MD Chair 代理)

現在のアクティブメンバーの数は、今月の段階で 7,407 名。昨年の同月比で 13 名増加、前月比 48 名増と微増している。Senior Member 昇格者数は 8 月分まで判明しており、28 名。

第 3 回理事会では 6 月分まで判明しており、そこから 3 名増加している。活動報告は、新規会員加入、既存会員継続、Senior Member 昇格申請、Life Member 申請の促進、Tokyo Bulletin への寄稿や在籍年数バッジの作成配布(今年 3 月に 942 個配布)など。また、今年

度は来年配布するバッジの準備をする予定。来年の予算は在籍年数バッジの郵送料とシニアメダル作成費用を計上予定。

質疑応答

Secretary : シニア昇格メダルは、昨今の物価高もあり見積額が大きく増加する見込み。予算計上が担保できないため、3月時点で正しい数字を出してもらおう。その件は次期 MD Chair にも引き継ぐ。

Past Secretary : 今回、Graduate Student Member が大幅に増えているのはなぜか。

Japan Office : コロナの時期、世界的に学生数が減る傾向だった。その後、IEEE の「Future 50」という学生向け 50%オフ割引キャンペーンを行い学生数が回復した。日本でも同じ傾向が見られると聞いている。

Secretary : 今年いっぱい終了と聞いている。

Japan Office : 2023 年のメンバーシップまでは使えるが、その後継続予定は無い。

Secretary : その後も見ておく必要がある。

・ Technical Program Committee

(資料 6-4)

報告 : TPC Vice Chair

今年は 3 月総会時を初回とし、来月 1 名の方に講演を頂く予定。その講演を含めて TPC 主催の講演は 8 回となり、LMAG 共催、TPC 共催の分を含めて計 10 回講演会を開催した。2023 年の活動予定は主催講演会を 6 回以上実施予定。初回は 3 月総会時を含めている。共催分を含め計 10 回程度を予定。講演会の形態は参加者の利便性を考え、オンライン講演会を基軸とし、講師の希望によりハイブリッド形式開催も検討したい。費用は 2022 年度並となり、主催講演会の準備および講演者への記念品が含まれる。YP との連携は、合同講演会開催を引き続き検討したい。

質疑応答

Chair : 11/1 に IEEE President の講演会を TPC 主催で開催し、President が喜ぶような良い講演会だった。東京支部の面目が立ち、プレゼンスも発揮できた。TPC 各位、TPC Vice Chair、TPC Chair、事務局員にはお礼を申し上げたい。講演後、IEEE Past President の発案で IEEE President と対話し、大学院生にエンカレッジメントを頂いた。学生が IEEE に入らねば、という気持ちになるような働きかけであり、Member を増やすのに直接的な効果があると感じた。TPC は Membership Development にも大きな貢献ができると思う。

TPC Vice Chair : 対話会は非常に良い会だった。

Chair : IEEE President との対話が対面だったのに対し、他のものは Zoom 配信が多い。対面でのメッセージの伝わりやすさ、Zoom でのメッセージの伝わりやすさがある一方、

各々の伝わりにくさもあると思う。来年は対面を増やす方向になるのか。

TPC Vice Chair : 良し悪しがある。対面はメッセージの伝わりやすさがあるが、オンラインは参加がしやすい。対面 1 本には戻すことは難しい。講演者の意向を踏まえ、良いスタイルを決めていく。

・ Publications Committee

(資料 6-5)

報告 : PC Chair

Tokyo Bulletin は、11/28 に 144 号を発行し合計 8 件となった。12 月に 2 件発行を予定している。今年は予定していた発行部数を実現できた。寄稿者の協力に感謝する。東京支部および JC のホームページ更新は、レギュラーな更新に加えて、数点行っているが特記すべきことは無い。今年の R10 Newsletter は 3 号しか出ておらず、例年より 1 号少ないことを念頭に置いて欲しい。東京支部の投稿は、第 4 回イブニングサロン開催の件が January のエディション、LMAG の Award 受賞セレモニーと JC マンガプロジェクトが April のエディション、東京支部 LMAG の 2022 年 Q2 活動報告の投稿が July エディションにそれぞれ掲載されている。ホームページ運営保守関係は、情報サーバ活動促進について Secretary からメールを発信。2023 年活動計画は 2022 年同様の活動を続ける。ホームページの改善依頼等があると思うので、その対応を検討継続する。

・ Student Activities Committee

(資料 6-6)

報告 : SAC Chair

第 3 回理事会以降の SB 活動は、二足歩行ロボットの設計と発表を東京電機大学 SB で行った。JC SAC 主催の Leadership Training Workshop2022 に東京支部から 7 つの SB が参加した。電通大と都市大は欠席したと報告を受けている。11/25 に Student Branch Research Presentation Encouragement Workshop を東京都立産業技術高等専門学校と名古屋工業大学で開催。オンラインでも開催し、研究発表や SB 活動紹介を行った。盛況だったと報告を受けている。報告書が出来上がれば、皆様に共有したい。11/26 に TOWERS を東京農工大学の東小金井キャンパスで開催。報告書および会計処理はまだ送付されていない。東京理科大学 SB は Latex 勉強会と Docker の勉強会の支援費を申請する予定。12/17 に農工大 SB 設立 10 周年記念 LT 大会を機械振興会館で開催予定。TOWERS の実行委員長から、実行委員への功労賞を出して欲しいと相談があり、まずは JC SAC と協議を行う。来年度は対面の活動が増えることを見込み、例年よりも多く予算を見積もっている。

質疑応答

Secretary : 今期の収支は、どの程度執行率があるのか。来年の予算も併せて教えて欲しい。

SAC Chair : 支出は 9 件を予定。来年の予算は基本的には本年度と一緒。来年度は対面の活

動が増えると予測している。

Secretary : 今期に関しては 6 割程度執行できると理解した。

Past Secretary : 11/18-19 開催の沖縄の SBLTW と、11/25 開催のワークショップは素晴らしいと思った。人数の少ない SB やプロベーションの懸念がある SB の参加があったようだが、特別な後押しがあったのか。

SAC Chair : カウンセラーの先生方と相談した。カウンセラーおよび JC SAC と協力し、何らかの活動でネットワーク構築をできないかと話をした。

Past Secretary : まず起点となる人達に参加頂くこと。そしてイベントをきっかけに大学の SB で他の人達にフィードバックし、良さを伝えると良い。その取組みを、継続・拡大できれば。

SAC Chair : SBLTW を沖縄で対面形式で開催し、ネットワークが構築されたのか、我々のもとに、農工大 SB 設立 10 周年記念 LT 大会を他の SB と共催して実施したいと問合せがあった。SB 内でも活動が活発になるよう、サポートしたい。

Secretary : 私も SBLTW には参加した。第 3 回東京支部理事会で SB 活性化の議論をした際、カウンセラーの先生方の役割が大きいと話した。今回、久々にカウンセラー同士のミーティングもセッティングされ、情報共有が行われた。我々の議論が JC レベルで実施された。

Chair : 沖縄の SBLTW は、旅費は自己負担なのか。

SAC Chair : JC SAC から原則 2 名分、補助が出る。他支部から 4 名、自己負担で構わないので参加したいと声もあった。

Chair : 東京支部ではその予算は計上していないが、それで良いのか。

SAC Chair : SBLTW 自体が JC 主催のため、JC で全て管轄する。

Chair : JC SAC が招待する人数を超える場合があり、その分は支部が補助した可能性があるとのこと。その良し悪しはわからないが、事例があるのなら、東京支部でも超えた分を補助しても良いのでは。

SAC Chair : 良し悪しがあるので私個人の判断では難しい。コロナ禍の影響で対面開催が数年できておらず、さらに沖縄開催のため参加希望者が増えた。嬉しいことだが、都内で開催の場合、さらに人数が増えるかを考えると、そうでない可能性もある。毎年旅費を積むのは少し難しいと思う。

Secretary : 参加した役員や先生方は、隔年で地方開催にすると良いと意見があった。どれ程の人数が集まるかは不明だと話をした。

Treasurer : 11 月と 12 月の実施が予算の大部分を占めているので、迅速に会計処理を進めて欲しい。私(Treasurer)の研究室の学生を沖縄に連れていった。有意義であったと報告を受けている。

Secretary : Treasurer には、精算レポートの書き方も指導頂いた。

Chair : 地方開催の場合、東京支部 SB が積極的に参加するために補助しても良いと思う。

Treasurer：学生のエンカレッジメントとして有意義な機会。支援があるのは重要。

Secretary：次期 Treasurer に引継ぎをお願いしたい。

・ History Committee

(資料 6-7)

報告：HC Chair

現在ノミネートされた案件は 6 件。他支部の申請状況は、関西支部からは 4 件、仙台支部からは 1 件、福岡支部からは 1 件。名古屋支部では贈呈式が終了したと報告があった。

今年は久々に JC HC が函館でハイブリッド開催され、北大の海洋センターで見学会を行った。

議題 6 について、異議なく承認された。

7. Affinity Group 活動報告 2022 年活動報告・予算執行状況および

2023 年活動計画・予算案【審議→承認】

(資料 7)

・ Life Members Affinity Group

(資料 7-1)

報告：LMAG Chair

来年の LMAG 役員は太田 Chair、林 Vice Chair、杉江 Secretary。役員引継ぎ会も行う予定。講演会の共催をおこなった。今年は LMAG 見学会を 4 回開催。既に 3 回開催した。Life Member の親睦を深めることが筋だと思っていたが、ハイレベルな技術の話が多く、Life Member 以外にも来て頂き、知識を得ると良いと感じた。SAC からも若手や学生にもイベントに参加させて欲しいと言われ、実現できれば良いと思った。見学会は人気が高く、募集定員よりもオーバーした。次回見学会は R10 LMAG MEET は来年の予算が無いと言われ、不安に思っている。今年度は予算通りの執行状況。来年は R10 fund の申請を考えている。

質疑応答

Chair：学会に属する価値として LMAG 活動がある。退職後も拠り所が提供されることは、学会の価値の大きな部分だと認知されている。見学会が東京支部 LMAG の特徴的な活動だが、サステナブルにできるのか。難しさはあるのか。

LMAG Chair：見学会は来年にも 1 回予定している。場所によっては IEEE 自体が認知され辛いのが、受け入れは良かった。見せたいと思っている企業を見つけるのがコツ。

LMAG には、その世界での重鎮がたくさんいるため、知恵を使えば上手くいく。来年についても次期役員が考えている。

Chair : LMAG の方々は、社会の重鎮だった。コネクションを若い世代に開放できることは、学会に所属する大きなベネフィットである。そこから学会の価値が生み出される。サステナブルが可能なら、ぜひ継続して欲しい。

LMAG Chair : 若い世代が積極的に入れるよう、輪を作りたい。

Treasurer : 計画に対する着実な実施に感謝したい。

YP Chair : 見学会に参加した。素敵なイベントだった。

Chair : YP が出ても学生が出ても面白いと思う。訪問先が非常に上手に選ばれているので、若い世代が入ると学会の良さが出る。

・ Young Professionals Affinity Group

(資料 7-2)

(Educational Activities Committee)

報告 : YP Chair

この 2 年間の YP のモチベーションとアクティビティ、誰が何を行っているかの資料を、学生や今後入るメンバーに向けて作成した。YP と EA では以前も予算の話があったが、YP Chair を務めた経験で気付いたことは、パッションとグッド・インテンションを掛ければ、活動を多く行っても予算を使わず皆様の役に立つこと。来年に向けても、YP 予算を減らすことを考えている。アクティビティ活動は、シンガポールの最も大きな国立研究センターからシニアサイエンティストを招待しイベントを行った。学生や若手の研究者に向けてシンガポールの研究所でどのような活動ができるか、インターンシップにはどのように申請するのか等テクニカル以外の話もして頂いた。「Find your Major」は、学生と若手の研究者たちに新しい専門分野と、世界でどのような活動ができるかを紹介するもの。

YP で初めて、IEEE Fellow に論文の書き方をレクチャー頂いた。1 週間で 70-80 人の参加登録があった。IEEE Tokyo YP の Student transition and Elevation Partnership(オンライン見学会)を開催。所長と若手 3 名が自分の研究分野と働き方、企業での研究者の過ごし方を話した。PC から提出の依頼があり、9 月の Tokyo Bulletin に 2 件の YP 活動が掲載された。

質疑応答

Chair : 素晴らしいコンテンツがコストパフォーマンス高く用意されており、感謝したい。

予算について、MAW の派遣費用等は今年計上されていなかったのか。

YP Chair : オンライン Webinar 等で海外の方を招待し、ワークショップを行うことが多かった。対面のイベントがあれば懇親会等で予算は掛かるが、我々はボランティアであり、IEEE からお金を貰うために活動をしていない。

Chair : 気持ちは素晴らしいが、学会に予算計画を出す必要がある。学会が本来ボランティアであるべき等という話とは別に、事務的な手続きをせねばならない。2023 年予算はど

れほどが適当なのか。

YP Chair : 来年の予算は私が作成したものではない。仮に私が作成するのであれば、更に減らすべきだと思う。

Secretary : 出来るだけ節約する方向で理解したが、その認識で正しいか。

YP Chair : MAW 等で予算を使うより、困っている学生に役立つべく予算を使いたい。任期終了のため新しい企画は出来ないが、次期 Chair が考えること。MAW 等に IEEE の予算を使うのは良くない。例えばインターンシップの申請費用のサポートなど、予算は困っている学生や研究者のサポートに使うのが良い。

Chair : 案件を引き継ぐべき次期 YP Chair は誰なのか。

Secretary : 現在調整中。

Chair : その趣旨を説明し、YP Chair の趣旨の沿った形で使うよう考えてもらうのか。Treasurer の意見が聞きたい。

Treasurer : 国際レベルのイベントをコストパフォーマンス高く実施していることに感謝するが、事務的な立場から見ると実施可能な計画があると良い。2022 年と 2023 年を比較すると、TENCON 派遣費用を外した点が違う。2023 年は MAW 派遣費用の実施を見込んでいるのか、そうでないのか。YP 内で 1 本化し、事務局に報告をお願いしたい。

YP Chair : 賛成する。

Secretary : 効率的に予算を使っているが、次回の理事会で精度の高い予算計画をもう一度報告して欲しい。

・ Women in Engineering

(資料 7-3)

報告 : WIE Chair

役員会を開催した。特筆すべきは SYWL に参加した件と、東京信越 WIE で年に 1 度開催する大きなイベントの WIE2022 が終了したこと。年 1 回大規模なシンポジウムを行うことを大事にしており。今回は久々に対面を交えて開催。現地参加者が 26 名、オンライン参加者が 51 名と合計 80 名近くが参加し、盛況に終わった。2 名に講演をいただいた。Career Navigator を EA と共催した。IEEE President との交流等にも何人かが参加した。今後の予定は、12/10 に WIE Red Carpet Ceremony を開催する。Senior Member 昇格者 1 名、JC Chair と R10 Past Director のお祝いを行う。役員自身のお祝いもしたい。来年は Kawamoto 氏が次期 Chair になるので、今後もジョイント活動を続けていく体制が整っている。

質疑応答

Treasurer : 計画に対する着実な実施に感謝したい。会計処理をお願いする。

WIE Chair : 来年の予算について説明する。1 点、大きく変わった箇所があり、WIE のシ

ンポジウム予算を支部に付けている。本来は、WIE 全体を巻き込んで開催予定だったが、支部は自分の支部を盛り上げることで精一杯。まずは支部を主体に行ってみて、それぞれの支部が盛り上がれば、大きなイベントを一緒にできると考えている。

Secretary : WIE は会員数増加に向けて是非頑張ってもらいたい。

議題 7 について、異議なく承認された。

8. 2023 年東京支部活動計画【審議→承認】 (資料 8)

報告 : Secretary

東京支部活動計画は、各 Chair 等から提出されたものを記載している。理事会で承認されれば、12/9 JC 理事会にて Chair から報告予定。

議題 8 について、異議なく承認された。

9. 2023 年東京支部予算【審議→承認】 (資料 9)

報告 : Treasurer

今年度は円安がトレンド。JC LRSC で為替レートを決定した。2023 年の予算計画に適用する為替レートは、主要な金融系シンクタンクの為替レートの予測資料を参考にしたところ、平均 1 ドル 140 円程度を予想していた。例年、リスク回避のため 5 円の差し引きを予算計画の際に行っているため、140 円から 5 円を引いた 1 ドル 135 円で 2023 年の予算計画を策定する。円安の影響で、収入は 2022 年予算より増加見込み。支出は理事会等の会議費用が従来通り固定。それ以外は、各 OU の、予算計画の申請を反映している。来年度予算は、支出が収入を上回る。2022 年予算とほぼ同等の収入と支出の差を想定している。

議題 9 について、異議なく承認された。

10. その他 (資料 10)

・ SIGHT 報告 (資料 10-1)

報告 : IEEE Tokyo SIGHT Vice Chair

9/16 に第 27 回 IEEE Engineer Spotlight が開催された。ITS Tokyo Chapter から紹介頂き、MaaS のサポート技術に関する講演を頂いた。11/4 に Career Navigator を開催。東京都小平市立小平第二中学校の 2 年生を対象に、SIGHT の Secretary と Chair が中心となって参加。Chair が自身の経験から、中学生にアドバイスをした。現状、中学生は企業見学や遠足に行くことが出来ないため、代わりに企画として喜んでもらったと報

告を受けている。11/18のSBLTWでSIGHTの発表を行った。SIGHTの周知をして学生がMemberになり、活動に参加してもらうことを目指している。2023年の活動はミーティング、Engineer SpotlightとCareer Navigator等を共催および後援する。SIGHT内で個別のプロジェクトを新規に立ち上げる予定。予算は計上していないが、R10と本部のfundに応募予定。

質疑応答

Chair:先日、IEEE Presidentが来訪した際、IEEEはEngineerのためで無く、Professionalのためのものであると仰っていた。Engineerを超えてProfessionalなら誰でも関係する。その中で、Humanitarian Technologyは、TechnologyでなくHumanityとして捉えるのが良いと思う。

IEEE Tokyo SIGHT Vice Chair : Humanitarian Technologyと名前が付いているため、Technologyベースが多いが、徐々にHumanityの面も広がると思う。

Chair : Technologyとした瞬間に、Humanityとの相性がわからなくなる。Technologyなのか、Humanityなのか。活動の活性化に向けて、どのように表現して周知するか。そしてEngineerとTechnology以外の人にどう参画して頂くか、作戦を考えるのが重要だと感じた。

・事務局労務関係業務のシステム化について (資料 10-2)

報告：幹事会社担当

IEEE事務局の労務関係業務(勤怠管理と給与承認)のシステム化について、7/15第2回JC理事会にて承認された。このたび、システム化が完了し11/21から運用を開始した。既に導入済のクラウド基盤を活用し、勤怠記録の一元管理および給与承認のワークフローをシステム化した。実施内容はシステムにアプリケーション2本(勤怠入力アプリ、給与承認アプリ)を作成。納入日は11/30、支払期日は12月末日を予定している。

質疑応答

Secretary : 勤怠入力は11/21から運用を開始し、事務局員から効率的な業務が出来ているとコメントがあった。給与承認においても、11月支払い分から活用し、プライベート情報をメール添付せず、システム上で関係者が確認および承認をしている。

・次期理事会への引継ぎ事項 (資料 10-3)

報告：Secretary

引継ぎ事項は一般的な内容を記載しているので、内容の確認をお願いしたい。

質疑応答

Chair : YP の予算の件などは、各委員会とグループで引継ぎを行うのか。

Secretary : 基本的にはそう考えている。

Chair : この資料に纏めるよりは、個々に引継ぎした方が良いのか。

Secretary : 全体的に考え方を大幅に変えるのでなければ、基本的に各 Committee とグループに任せる。この資料は 4 役および全体に対して、基本的な運営の願いを纏めたものである。

- [参考] メール審議一覧 (資料 10-4)

報告 : Secretary

東京支部のメール審議は 2 件。いずれも反対意見なく、承認された。

- [参考] Region10 からのメール連絡一覧 (資料 10-5)

報告 : Secretary

R10 からのメールは適宜関係する Committee およびグループに送付している。

以上